

## 都電荒川線沿線におけるバラの植栽事業

東京都荒川区土木部公園緑地課  
緑化推進係 諸角明彦

### ○バラが咲き誇る都電沿線

都電荒川線は、都内に唯一残る都電として地域住民はもとより、多くの人々に親しまれています。

バラの植栽事業は、この都電荒川線の軌道敷（区内延長約4.8kmのうち植栽可能な約3km）を華やかなバラの花でいっぱいにと、昭和60年から始めたものです。こうした取り組みに対して、平成17年度には（社）日本観光協会「花の観光地づくり大賞」という名誉ある賞を受賞しました。

(<http://flower.nihon-kankou.or.jp/contents/03kantou/03arakawa/01.html>)

平成21年3月現在、都電沿線には、140種約1万3,000株のバラが植栽されており、季節には多種多様のバラが人々の目を楽しませています。今では、華麗に咲き誇るバラをひと目見ようと、区外から訪れる人も増え、荒川区の観光資源の一つとして成長しつつあります。



都電沿線のバラ

### ○東京都交通局との連携

バラの植栽事業は、都電の軌道敷を利用して行うものであるため、東京都交通局との連携が重要となります。この事業を立ち上げるにあたっては、交通局と区とで「都電荒川線及びその沿線の緑化に関する基本協定」を締結しました。この協定に基づき、交通局は無償で敷地を提供し、区がバラの植栽と維持管理を行っています。

バラを毎年きれいに咲かせるためには、剪定や灌水など、日頃からの維持管理が大切です。そのため、都電の営業時間中の軌道敷地内への立ち入りも必要となることから、交通局と区の連携は、益々重要になってきています。



バラの剪定の様子

### ○区民ボランティアによるバラの管理

区民の皆様が、バラに愛着を持ってもらうことと、バラの維持管理を通して花や緑を愛する心を育てていくための足がかりとするために、平成15年に区の呼びかけにより、バラの育成を行う「荒川バラの会」を結成しました。

現在、47名の会員が三ノ輪橋班とあらかわ遊園班の2班に分かれて、それぞれの停留所周辺に植栽されたバラのお世話を楽しんでいます。

ボランティアに参加している方からは、『「きれいですね」と声をかけられるとうれしくなります。』、「たくさんの人にバラを見に来て欲しいです。」など、やりがいがあるという声があがっています。

今後も、「荒川バラの会」の会員を増やしていくために、バラの講習会等のイベントやPR活動を積極的に行っていく予定です。



荒川バラの会の活動の様子

## ○花と緑あふれるまちを目指して

区では、20年度末に、都市緑地法に規定する緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画となる「荒川区花と緑の基本計画」を策定しました。

この基本計画では、今ある緑を保全したり、量的に増やしていくことに加え、「花と緑の名所をつくり育てる」を基本方針の一つとして掲げています。これは、区民一人ひとりが花と緑を愛して、自ら育て、そしてその花や緑を誰にでも誇りを持って紹介できる名所として育て区内各所に増やしていくことを目標とするものです。

都電沿線のバラは、すでに「花の名所」<sup>※</sup>として定着しつつありますが、区内全域に広がりを持たせるため、区ではバラを用いていくつかの取り組みを行っていく予定です。

### (1) あらかわバラの市の開催

5月23日(土)に町屋駅前において、「あらかわバラの市」を開催します。このイベントは、バラの即売会等を開催し、花と緑によるまちづくりのきっかけとするとともに、都電沿線のバラとの連携により新たな観光資源として成長させ、区のイメージアップを図ることを目的とするものです。

### (2) バラをテーマとした公園の整備

今後整備を予定している都市計画公園である宮前公園は、都電荒川線に接しているため、バラをテーマとした公園として整備することで、都電のバラに奥行きと広がりを持たせます。

### (3) 毎年200株植栽

現在、都電の沿線には、約1万3,000株のバラが植栽されていますが、今後も毎年200株の植栽を継続的に行い、質を高め、ボリューム感を増していきます。

花や緑は、まちに彩りを添え、私たちに癒してくれます。また、近年問題となっている地球温暖化やヒートアイランドの対策としても効果が期待できます。

都電沿線のバラは、このような効果に加え、区のイメージアップや観光振興の観点からも有効です。

今後も、都電沿線のバラを活用した花と緑あふれるまちづくりを進めて参りたいと考えています。